

関係各位

京都府病虫害防除所長  
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので、送付します。

## 発生予察注意報第1号

昨年同様、本年もネギべと病が多発傾向です。今後の発生に注意してください。

作物名：ネギ、タマネギ

病虫害名：べと病

- 1 発生地域：全域
- 2 発生時期：4月下旬～6月
- 3 発生量：やや多い

4 注意報発表の根拠

(1) 平成28年、29年とも本病(写真1)が多発(表1)し、その際にほ場にすき込まれた被青葉(卵孢子)が、今春の伝染源として存在している。

表1 ネギべと病発生調査

調査年月	発病株率(%)	発生ほ場率(%)
平成29年5月	48.2	95.2
平成28年5月	13.1	85.7

(2) 4月中旬に山城地域の一部で本病の発生を認めている(写真2)。



写真1 ネギべと病の病斑(矢印)



写真2 今春のネギべと病の発生状況  
(枠内：発生箇所)

(3) 本病の好適感染条件（日平均気温が13～20℃前後で、曇雨天が続く）が4月に見られる（図1）。

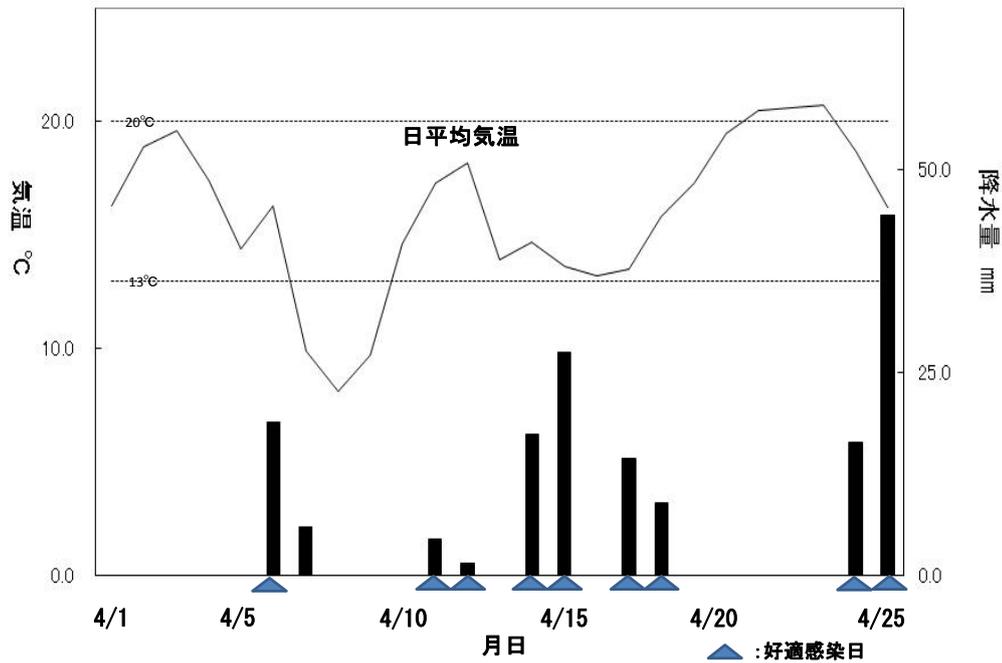


図1 平成30年4月の気象状況(京都市、気象庁)

#### 5 防除上の留意事項

- (1) ほ場の水はけの悪い箇所から本病が発生しやすくなるので、排水に努める。
- (2) 発生前や初期発生から定期的に本病に登録のある殺菌剤（表2）を散布し、蔓延（二次伝染）防止に努める。
- (3) 被害葉は、翌年の伝染源となるので、収穫後の被害葉は集めてほ場外に持ち出し、土中深くに埋めて処分する。

表2 ネギベと病に登録のある主な薬剤

FRACコード※	薬剤名	希釈倍率	使用液量	使用時期	使用回数
4.M3	リドミルゴールドMZ	1,000倍	100~300L/10a	収穫30日前まで	3回以内
4.M5	フォリオゴールド	800~1,000倍	100~400L/10a	収穫14日前まで	3回以内
39	ハチハチ乳剤	1,000倍	100~300L/10a	収穫7日前まで	2回以内
7.M5	ベジセイバー	1,000倍	100~300L/10a	収穫14日前まで	2回以内
11	アミスター20フロアブル	2,000倍	100~300L/10a	収穫3日前まで	4回以内
11	メジャーフロアブル	2,000倍	100~300L/10a	収穫前日まで	3回以内
11.M5	アミスターオブティフロアブル	1,000倍	100~400L/10a	収穫14日前まで	3回以内
21	ランマンフロアブル	2,000倍	150~300L/10a	収穫3日前まで	4回以内
21.M5	ドジャースフロアブル	1,000倍	100~300L/10a	収穫14日前まで	3回以内
45.40	ザンプロDMフロアブル	1,500~2,000倍	100~300L/10a	収穫14日前まで	3回以内
3.M3	テーク水和剤	600倍	100~300L/10a	収穫14日前まで	3回以内
40	フェスティバル水和剤	2,000倍	100~300L/10a	収穫14日前まで	3回以内
40	レーパスフロアブル	2,000倍	100~300L/10a	収穫7日前まで	2回以内
40.M1	フェスティバルC水和剤	1,000倍	100~300L/10a	収穫14日前まで	3回以内
40.M3	フェスティバルM水和剤	1,000倍	100~300L/10a	収穫14日前まで	3回以内
40.M3	カンパネラ水和剤	750倍	100~300L/10a	収穫14日前まで	3回以内
40.M5	プロポーズ顆粒水和剤	1,000倍	100~300L/10a	収穫14日前まで	3回以内
27.21	ダイナモ顆粒水和剤	2,000倍	100~300L/10a	収穫3日前まで	4回以内
27.40	ベトファイター顆粒水和剤	2,000倍	100~300L/10a	収穫14日前まで	3回以内
33	アリエッティ水和剤	800倍	100~300L/10a	収穫3日前まで	3回以内
M1	ボルドー	500~1,000倍	100~300L/10a	—	—
M1	Zボルドー	500倍	100~300L/10a	—	—
M1	ヨネボン水和剤	500倍	100~300L/10a	収穫7日前まで	4回以内
M3	ジマンダイセン水和剤	600倍	100~300L/10a	収穫14日前まで	3回以内
M4.M1	オキシラン水和剤	600倍	100~300L/10a	収穫14日前まで	5回以内
M5	ダコニール1000	1,000倍	100~300L/10a	収穫14日前まで	3回以内
M7.M3	サーガ水和剤	500倍	150~300L/10a	収穫30日前まで	3回以内

※ FRACコード(殺菌剤コード)

殺菌剤の有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号のことで、本コードが異なる薬剤を使用することにより、同一系統の薬剤の連用を防ぐことができる。

※ 各薬剤の登録内容は平成30年4月24日現在のものである。

農薬の使用に当たっては、最新の使用方法や注意事項を必ず確認すること。また、各薬剤の使用回数を守るとともに、有効成分の総使用回数についても注意すること。